2005 年 7 月号　（No.255）

目　　次

《巻頭言》

看護業務と医薬品 ・・ 2
古橋 美智子（社団法人日本看護協会副会長・上尾中央総合病院副院長）

「臨床試験情報」の登録と開示に関する JAPIC の取り組み ・・・・・・・・・・・・ 5
首藤 紘一（財団法人日本医薬情報センター 理事長）

《お知らせ》 JAPIC**「医療用医薬品集」**2006 **発行／「***JAPIC J***」**No.3 **発行**・・・・・・・・・・・・ 7

《トピックス》「第 7 **回** JAPIC **ユーザ会」を終えて／同 参加記／**
「JAPIC-Q **サービスユーザー会」報告／「第** 122 **回薬事研究会」報告／**
「平成 16 **年度事業報告・決算理事会，評議員会」報告概要**・・・・・・・・・・・・ 9

《図書館だより No.181**》** ・・ 16

《6 **月の情報提供一覧》** ・・ 18

《巻頭言》

看護業務と医薬品

社団法人日本看護協会　副会長
上尾中央総合病院　副院長
古 橋　美智子（*Furuhashi Michiko*）
(JAPIC 評議員)

『患者の視点を重視』することを軸に、医療法の改正をも視野に置いたこれからの医療提供体制の議論と、見直された介護保険法改正の動きが進行中である。

その中でも“安心と安全、納得の医療と介護”の提供と享受は、この国の社会保障のかたちを見据え、思考する点からも、今、要の事柄と思われる。

しかし、一方、人々の医療への信頼感が揺らいでいることを痛感する現実が横たわっている。ここ 5～6 年間の医療事故関係報道の急増や、医療機関自らの事故の公表、そして人々の受療体験上の不納得感や、情報の不足感、これらのことが複合して人々の医療不信を招いているのも確かであろう。このことは、医療サービスをめぐる利用者と医療提供者双方の葛藤でもあり、決して大げさではない苦悩でもある。

看護界に於いても、医療安全・事故防止対策への実効性ある取り組みは、第一の急務であり命題である。医療現場において、看護職員が担っている業務は、いわば間口が広く他に類がない程に多様である。また就業数も全国規模では 120 万人を超え、各病院等医療機関での就業人数は看護職が群を抜いて多い。その分インシデント、アクシデントの場面で当事者となってしまう件数も医療職の中では、看護師に多いのが現実である。現在、厚生労働省『第六次看護職員需給見通し検討会』が進行中であるが、ここでの検討基盤に置かれている最重要課題も当然のことながらやはり“医療安全の確保”である。

看護業務における安全の追求と確保を考えるとき、最も重要なものは、医薬品に関係する業務であると思っている。所謂ヒヤリ・ハット事例に占める医薬品関係事案の割合は 35～40％とされ、事故等の事案においても深刻な例が少なくない。

近年、第三者機関としての財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価が普及し受審病院が急速に増加してきており、平成 17 年 5 月 30 日現在での認定病院数は 1,635 になった。医療の質向上の面で、この病院機能評価の仕組が成果をあげていくことを大いに期待する一人である。ここでの評価においても安全確保の分野は重視され、特に薬剤部門の組織・機能と共に『ケアプロセス』と称して病棟での日々業務における薬剤与薬に関わる項目が、診療担当及び看護担当の評価調査者２人によって、現場確認を基に評価されているのである。

医薬品関係のケアプロセス評価項目を抜き出し、その内容を見てみると、概ね、次のようなものになる。

・薬剤情報関係　医薬品情報、資料が必要箇所に整備されているか。
副作用、相互作用、配合禁忌等の情報が参照できるか。
新規情報や留意点はその都度適切に病棟に提供されているか。
・処方箋・注射箋の記載の適切性と確実性
薬品名、用法、用量、投与期間が適切確実に記載されているか。
・抗菌薬、血液製剤の使用指針、マニュアルが作成され、守られているか。
・抗がん剤、特殊薬剤の使用について検討され、使用基準、等の仕組みがあるか。
・病棟への薬剤供給
注射剤の個人別取り揃え、内服薬の１回量１包化（必要時）を行っているか。
夜間、緊急時の薬剤部・病棟間の連携協働によりなされているか。
特に薬剤師の積極的関わりがあるか。
・病棟薬剤の在庫管理
麻薬、向精神薬の施錠管理、鍵の適切な保管がなされているか。
劇薬・毒薬・注意薬の区別管理、施錠管理がなされているか。
救急カート薬品の定数整備と保管は適切か。
薬品棚の薬品表示や保管配列は、誤認防止取り違え防止の点で適切か。
在庫薬品の日々点検は、薬剤師・看護師間の連携協働でなされているか。
特に薬剤師の積極的関わりがあるか。
在庫薬品については医師・薬剤師・看護師間で検討され、薬品名･用量･定数が明示にされているか。
・病棟における調剤
注射薬の調剤場所の確保と清潔整備は十分か。
注射薬の調剤は薬剤師が行っているか（特に抗がん剤）。
薬剤部で調整された注射薬の病棟への供給は速やかで、タイムリーか。
・薬剤の与薬方法と観察
内服、注射与薬時に、間違い防止のための明文化された実施手順があり、確実に守られているか。
血液製剤、抗がん剤等その内容、量、与薬速度に注意を要する場合に、途中、終了後の経過観察をする手順書があり、観察事項の記録があるか。
医師の確認（サイン）はあるか。
自己管理内服薬等の手順書があり、その内容は適切か。守られているか。
・服薬指導、薬歴管理
薬歴管理に基づいた服薬指導が行われ、その内容が記録されると共に、医師・薬剤師・看護師間において情報の共有、連携がなされているか。記録は病棟に一元的に管理されているか。など

こうして列挙してみると、いかほどに薬剤師と看護師の連携と協働が期待され要請されているかを実感する。さらには、臨床場面での薬剤師の専門的機能の拡大が望まれていることも確認するところである。医療安全・事故防止の面からも適切で過不足のない人員配置はやはり早急な課題であろう。

また、安全な医療提供のために、看護職員が確かな医薬品情報（知識と取り扱い実践のための技術知識）を持つことがいかに必要かを痛感するところでもある。

JAPIC 事業の根幹でもある医薬品情報の発信が、医療現場の特に看護業務においても、有効に活用されるよう願い、このことで当組織の評議員を仰せつかっている者の一人としても役立ちたいと切望している。

日本看護協会が 2004 年 11 月に調査した『新卒看護職員の早期離職等実態調査』によれば、新卒看護師がもっと受けたかった教育・研修（複数回答）は、1 位「**薬に関する知識教育」65.3%、2 位「配属先に専門的に必要とされる技術等」58.8%、3 位「注射など医行為の技術教育」49.7%**の順であった。

今年度 JAPIC が装いも新たに発行を予定している『医療用医薬品集』が看護職員や看護学生にも購入しやすくなり、広く普及していくよう願っている。

「臨床試験情報」の登録と開示に関する JAPIC の取り組み

－臨床試験情報を運営するにあたって－

財団法人 日本医薬情報センター(JAPIC)
理事長　首 藤　紘 一（*Shudo Koichi*）

昨年来、急速に興味が深まり具体的な議論の対象になってきた臨床試験の情報の登録と開示の扱いに関して、JAPIC の基本的な考え方と具体的な取り組みについてお知らせいたします。

そもそも、なぜ、臨床試験の情報を公開せねばならないかでありますが、臨床試験は、患者をはじめとする多くの人々の善意と協力によって成立しているところが極めて大きいものです。その行われている試験の情報を秘密にしておく理由はありません。そして、その開示は後々の試験結果の公開にも働きます。この公開は試験参加者に対する義務でもあるはずです。

また、今の時代において、透明性はますます要望が高くなっています。そして、製薬協も公開の方向を明確にしております。さらに、大学やそのほかの機関も具体的に公開のためのサイトとなることを検討しております。この中にあって、医薬品に関するいろいろな情報、有効性や安全性に関する文献や、添付文書の情報を、インターネットで広く多くの人々に供給しております日本医薬情報センターは、臨床試験に関する情報を提供するにふさわしい、少なくとも一つの公的な機関であると考えております。昨年来、「iyakuSearch（医薬品情報データベース）」として検索システムを確立し好評を得ておりますが、その一環としての情報提供であります。

この臨床試験の情報提供は、広く一般の人々を対象にするものですが、試験参加者のリクルートや、企業の宣伝や、また、学術誌への投稿資格を得るためのものではありません。臨床試験という患者をはじめとする試験参加者に対してなすべきことであるからです。

このシステムの構築には、製薬協の人々と、何回も会合を持ち、また、臨床試験や薬事に詳しい方々のご意見も参考にしました。また、製薬協傘下の企業ばかりでなく、意義のある臨床試験を行おうとする企業や医師のグループの方々の参加も考えております。したがって、登録しようとする方々の全てを満足させるものではないかも知れません。

大事なことは、この登録は基本的に任意であり、登録し公開する内容も登録する方がご自分で判断して登録内容を決めることです。これは、企業により考え方が違うであろうこと、また、同じ企業でも、個別の案件で状況が大きく違うことからです。また、外国企業の方針と国内企業とでも異なるでしょう。登録し開示する内容もどこまでにするか、一律には決められないと思います。このとき、実質的な中身がない内容の情報であれば、登録、公開する意味がありません。

実施していくと、必ず、いろいろな問題が出てまいります。検索結果の中身や表示の仕方にもいろいろな問題が出てくるでしょう。特許をはじめ知的所有権の問題もあります。用法についても、特に注意せねばならないでしょう。問い合わせに対する対応も考えておかねばなりま

せん。その上で、ご登録いただくことになるのだろうと思います。いろいろな事情で登録しないということも十分に考えられるでしょう。

このシステムには変な研究が登録、公開されては困ります。しかし、わが国では治験の制度がしっかりしていますので、治験は治験届でその内容は担保されていると考えます。問題は非治験で、医師が行う臨床研究では、掲載のための何らかの基準が必要です。これは、当面においては、組織がしっかりしていること、IRB のもとで審査が行われ、試験薬の供給が明確なもの、資金の出所が明確なものなどの宣誓が必要であると考えています。現実に、どのような、治験でない臨床試験が登録されるかわかりません。

システムについては細かいところばかりでなく、重要な点においても変更は大いにありうると思います。また、製薬協のお考えもあることと思います。臨床家の考え方もあります。また、薬事法上の問題もでてくるかもしれません。

結果の公表については、承認されたものについては、承認申請資料と承認審査報告書へリンクすることで、必要なことは完成いたします。少なくとも、承認審査報告書は承認時点においては、もっとも信頼できる情報であります。問題は未承認や、開発中止のものについての情報をどのような形で情報提供するかであり、ここにこそ、未承認薬に関する有効性の情報にならないように注意せねばならず、大きな問題があると考えています。無効であったもの、毒性に関するものなどについては、積極的に公表のサイトへのリンクは行うべきだと思います。

しかし有効性に関しては、社内資料的なものは信頼性の問題とともに、広告宣伝的な観点において、検討がなされるべきであります。これら、公開に関しては、これから議論していくべきことと考えています。

もう一つの問題は、治験でない臨床試験の場合、すなわち非治験の場合、その試験計画書、プロトコールについてでありますが、それらを鍵をつけて、お預かりするというシステムを考える必要があるかもしれません。これは、先の問題で今、議論する事ではないと思っています。

基本的にこの登録は任意であり､個々の場合においてそれぞれ事情が異なるものと思います。このような状況でありますが、一つのスタートラインとして、７月１日には発足する予定ですすめております。皆様からのご意見や問題点の指摘をいただきたくお願い申し上げます。

以上平成 17 年 6 月 1 日一ツ橋ホールで開催いたしました「臨床試験情報」説明会における挨拶を掲載し、JAPIC の本事業に対する考え方をご紹介いたしました。

現在、システム利用登録を受付中です。登録内容等については、6 月 1 日以後多少の変更もありますので、7 月 1 日公開予定の臨床試験情報ホームページ（iyakuSearch トップ画面から）にて最新情報をご確認の上、ご利用いただきますようお願いいたします。次号にて詳細な内容をお知らせいたします。

● 臨床試験情報担当（E-mail　japicCTI@japic.or.jp、Tel03-5466-1823、Fax03-5466-1816）

お 知 ら せ

◆JAPIC「医療用医薬品集」2006 発行のお知らせ

＜30 年の編集実績を誇る JAPIC の医薬品集が大刷新いたします＞

これまでは「医療薬日本医薬品集」として（財）日本医薬情報センター（JAPIC）が 30 年にわたり編集し、（株）じほう発行でした。2006 年版から JAPIC「医療用医薬品集」として、（財）日本医薬情報センター（JAPIC）が編集・発行し、丸善（株）出版事業部が発売します。

2006 年版の概要と特徴

国内で流通する医療用医薬品約 16,000 品目の組成、適応、用法、使用上の注意、薬物動態、臨床成績、薬効薬理を、剤形、規格、投与経路の違いによる記載内容の違い、製品間のばらつきも含め網羅的に記載し、五十音索引、欧文索引、薬効別分類索引を本誌に収載。

別冊付録として識別コード一覧、および本誌内容と識別コード情報を収載した CD-ROM を添付。

＜より見やすく、わかりやすく、使いやすく＞

- ■ 編集根拠とした添付文書を「基本添付文書」として記載し該当製品すべてを一覧で掲載
- ■ 「警告」、「禁忌」、「原則禁忌」は赤枠で囲み、「重大な副作用」は青枠で囲み、さらに個々の症状を青字で示し、重要事項が目立つように掲載
- ■ 相互作用、副作用、薬物動態、臨床成績は表表示を使用し一覧性を高めた
- ■ 各有効成分の構造式を本文中に掲載し、化学構造から薬理作用へのアプローチを可能とした
- ■ 各成分ごとに関連する保険適用通知を本文中に掲載し、保険適用上の注意点をすぐ参照できる　など

JAPIC「医療用医薬品集」2006　CD-ROM 付
（財）日本医薬情報センター編集・発行　発売元丸善出版事業部
発刊：2005 年秋　定価：14,700 円（税込み）体裁：B5 判／約 3,000 ページ

本書に関するお問い合せ先：事務局業務担当 TEL：03-5466-1812，FAX：03-5466-1814
購入に関してのお問い合せ：丸善（株）出版事業部 TEL：03-3272-0521，FAX：03-3272-0693
又は丸善（株）出版事業部 HP（http://pub.maruzen.co.jp/）

（添付文書情報担当　TEL.03-5466-1825）

◆「*JAPIC J*」 ｼﾞｬﾋﾟｯｸｼﾞｬｰﾅﾙ　*No.3*　発行しました

6 月 13 日に第 3 号を発行し会員の皆様にお送りいたしました。ご利用いただきたいと存じます。「医薬品の適応外使用情報の活用」「患者中心の医療と医薬品情報」を中心に内容をわかりやすくまとめてあります。また、JAPIC 医薬品情報データベース「iyakuSearch」についても掲載してありますのでどうぞご活用下さい。本誌をご希望の方には無料でお送りしますので事務局業務担当までご連絡ください。

（事務局業務担当　TEL.03-5466-1812）

平成 17 年度 4 月から 6 月までに JAPIC の会員として新たにご入会いただいた会社・機関です。

☆（株）井田ラボラトリーズ　☆ ゼファーマ（株）　☆ デンツプライ三金（株）
☆ 東洋製薬化成（株）　☆（株）メドレックス　☆ アンジェス MG（株）
☆（株）カネボウ化粧品　☆ (財)日本薬剤師研修センター
☆（社）日本病院薬剤師会　☆ 千葉科学大学
☆ アクテリオンファーマシューティカルズジャパン（株）

トピックス

◆「第 7 回 JAPIC ユーザ会」を終えて

平成 17 年度第 1 回目の「JAPIC ユーザ会」を 6 月 6 日（月）東京、6 月 10 日（金）大阪で開催しました。東京 101 名、大阪 45 名のご参加をいただきました。

JAPIC からは平成 17 年度の重点化事業および新規取り組みについてご紹介しました。

東京会場では**名城大学薬学部医薬情報センター　大津史子先生に「情報公開時代の医薬品情報の取り扱い」**についてご講演いただきました。情報があふれ、また容易に入手できる現代において大切なこと、注意すべき点は何か？身近な例題をもとに日常的に安易な情報処理をしているのではないかと問いかけ、情報の感受性の低下、忘れていたマニュアル時代を思い出せてくれました。参加者の多くが情報の取り扱いの原点について考えさせられたと感想を述べておられました。次ページの参加記をご覧ください。

大阪会場では**市立吹田市民病院 薬剤部 藤原豊博先生に「医薬品の適応外使用情報について」**をお話いただきました。藤原先生には昨年東京で同様のご講演をお願いし、大変好評で、大阪でも講演してほしいとの要望が寄せられており、今回実現のはこびとなりました。普段聞くことができない医療機関での臨床例を聞くことができて勉強になった、現場ですぐ活用できる情報が得られたとの感想が参加者の多くから寄せられました。

また、大阪会場では「JAPIC 情報活用事例」として**旭化成ファーマ（株）の横山亮一氏に『iyakuSearch は便利なサイトーGoogle 気分で医薬文献検索ー』**を発表していただきました。詳細は次号に掲載予定です。

☆プログラム

＜東京会場＞ 平成 17 年 6 月 6 日（月）　長井記念館ホール

平成 17 年度新規事業・重点化事業のご紹介ー（JAPIC 担当者）
特別講演「情報公開時代の医薬品情報の取り扱い」
(名城大学薬学部医薬情報センター　大津史子先生)

＜大阪会場＞ 平成 17 年 6 月 10 日（金）　大阪商工会議所 502 号会議室

平成 17 年度新規事業・重点化事業のご紹介ー（JAPIC 担当者）
「JAPIC 情報活用事例」　（旭化成ファーマ（株）横山亮一氏）
特別講演 「医薬品の適応外使用情報について」
（市立吹田市民病院薬剤部　藤原豊博先生）

（事務局業務担当　TEL.03-5466-1812）

◆第 7 回 JAPIC ユーザ会（東京）参加記 ①

佐藤製薬株式会社　嘱託　安全性管理課長　　石井　久一

第 7 回 JAPIC ユーザー会に参加し、JAPIC の提供するサービスが大きく変わってきていることを実感しました。理事長以下、職員の方々と関係者各位の工夫と努力と研究の賜物であろうと、拝察し、敬服します。

講演が 2 題あり、1 題目は JAPIC の事業部門長による「平成 17 年度の新規事業・重点化事業の紹介」であり、2 題目は名城大学薬学部医薬情報センター講師大津史子博士による「情報公開時代の医薬品情報」でした。

1 題目では「医療用医薬品集」の体裁を大幅に変え、医薬品の化学構造式を掲載することが紹介されました。筆者は以前から、こうした医薬品集の類を利用するとき、構造式が記載されていないためにその化合物がどんなものなのか不安になって、改めて化学事典などを調べ直すことがありました。別に化学に識見があるわけでもなく、また構造式をみれば薬理作用や毒性がわかるといった能力を持つわけでもない浅学の身ではありますが、それでも化合物の顔を見ると何となく安心します。確かにそこに物が在ってそれが働いているのだという、存在感が生じるのです。

もう一つ、「国内医薬品添付文書情報」、「日本医薬文献抄録集」、「医薬品副作用文献速報」、「医薬品副作用文献情報集」といった出版物を廃止し、ホームページ上に公開した「iyakuSearch」で代替することが紹介されました。これも膨大な分量の出版物を書庫に整理して苦労して調べた時代を考えると、時の流れを感じざるを得ません。あわせて自らの年齢も感じる次第です。

2 題目の大津先生の講演は、面白く、また多くのことを考えさせてくれました。

先生は話が上手です。健康食品のインターネット情報やテレビ番組を材料に、「情報公開時代・情報化時代」の特徴として、情報の量、質、手軽さが旧来よりも際立っていることを挙げられました。また「いいとこ取りのポジティブ情報」が一人歩きする弊害も強調しました。

さらに、臨床試験を例にとり、情報の出発材料である「エビデンス」そのものに間違いのある事例を挙げて、事実を正しく検証することがいかに重要かを力説されました。

一次情報から高次情報まで、間違いは各段階でそれぞれに生じるとすれば、よく考えて事に当たらなくてはなりません。

情報が事実の検証を欠いたままで一人歩きすることは、意図的なものであれ、そうでないも

のであれ、昔からあったことであり、また現代においても地球上のどこの地域でも起こっていることです。情報を生成し、流布することが人間の営みの一つであると考えれば、情報の評価というのは一筋縄ではいかない問題であるということになります。

しかしながら、そう悟って諦めてしまうわけにはいきません。嘘や間違いを見極めて、本当のところを見つけ出さなくてはなりません。

同時に、われわれは事実から出発し、それを加工して得た高次の情報も必要とします。そうでなければ皆が出発点で事実の山の中に埋もれてしまい、事実の検討だけで日が暮れてしまうことになります。

われわれが、多くの場合、他の人の作った高次情報の利用者である以上、事実やエビデンスについても自分なりに理解し、納得のうえで、また半ば諦めて利用するという、それなりの努力と覚悟をしなくてはなりません。昔のように資料をひっくり返しながら自分で丹念に調べるほうが安心かもしれませんが、それだけでは済まないのが困ったところです。

JAPIC では、今年度から臨床試験情報の登録サービスを開始するとのことです。これも事実をありのままに公開し、広く世の評価に晒すという意味では、まことに意義ある試みであると思います。臨床試験の情報も、副作用の情報も、また診療成績の情報も、それほど遠くない将来、広く開示されて、多くの人々により分析され、研究されるようになるのではないかという気がします。情報化時代がどんなふうに展開していくのか、楽しみです。

◆第 7 回 JAPIC ユーザ会（東京）参加記 ②

神奈川県薬剤師会 薬事情報センター　　三田村　陽子

平成 17 年 6 月 6 日、長井記念会館ホールで開催された「第 7 回 JAPIC ユーザ会」に参加しましたので、概要およびその感想を報告します。

1．平成 17 年度新規事業・重点化事業の紹介 (JAPIC 担当者)

日本医薬品集を改名し JAPIC 編集「医療用医薬品集」(CD-ROM 付)を発刊するとのこと。発売元を変更し、低価格にして購入しやすくした。また、昨秋より開始した医薬品情報データベース「iyakuSearch」については、7 月からは臨床試験情報を始めるなどの充実化を図ることにした。なお、「日本医薬文献抄録集」「医薬品副作用文献情報」等の出版物を廃止したが、無料で閲覧できる「iyakuSearch」で代替可能であるとの説明があった。

神奈川県薬剤師会は JAPIC 会員なので医薬品集は送られてきますが、CD-ROM は別売りであり、価格で決心がつかず毎年買いそびれてしまいます。検索が必要なときは、CD-ROM を持っている他の薬剤師会に検索をたのみました。これからは迷惑をかけずに検索できるようになるわけで有難いです。

2. 特別講演「情報公開時代の医薬品情報の取り扱い」

(名城大学薬学部医薬情報センター　大津 史子先生)

現在は情報がいっぱい、しかも、あらゆる情報がインターネットで入手できる時代である。このことから《ついつい机の上だけで仕事してませんか？ ネットから取れる情報でまかなっていませんか？ いつの間にかネットに有る情報が全てになっていませんか？ そこにあったら、それで満足しがちではありませんか？ みつけたら、それをそのまま提供する＝情報の移動だけに終わっていませんか？ そしてその情報の持つ意味を考えなくなっていませんか？》と説明されました。情報化時代の医薬品情報における情報調査は、情報源の知識、情報源を使いこなす技術、情報を評価する知識・技術、情報を判断する知識・技術・倫理が求められると述べられました。

これらは、まさしく日常の自分の仕事への取り組みに投げかけられた言葉であり、反省させられる良い機会となりました。

今回のユーザ会の企画に感謝いたします。ありがとうございました。

◆平成 17 年度「JAPIC-Q サービスユーザー会」報告

去る平成 17 年 5 月 31 日、東京長井記念館地下ホールにて平成 17 年度 JAPIC-Q サービスユーザー会を開催いたしました。

当日は 81 社 121 名のご参加をいただき、懇親会も含めて盛況の中に終了することができました。誠にありがとうございました。

ご講演は厚生労働省医薬食品局安全対策課　課長補佐　河野典厚氏より改正薬事法に関連して「市販後安全対策と安全管理情報（副作用報告基準改正と GVP 適合性評価の考え方）」についてお話いただきました。

また、JAPIC 側からはこの 4 月に新しく JAPIC-Q サービスの担当者となられた方が多いことから Q サービス全般について再度説明いたしました。

同時に ICH E2D（市販後安全性情報の取扱い）ガイドラインに関連して、JAPIC-Q Plus サービス（生物由来製品の定期報告制度に関わる情報提供サービス）、PubMed 代行検索サービスを７月から９月までの３ヵ月間、現在の月１回から試験的に月２回の提供を行う旨説明いたしました。

当日の参加者アンケートからは今回のユーザー会は内容、説明とも概ね適切と評価いただきました。JAPIC-Q サービスの提供スピードも概ね満足しているというご回答をいただきました。

海外情報提供のご希望については主要誌の範囲（15 誌）でもよいから提供してほしいとのご回答は 93 名中 49 名でした。

今後、海外情報提供ご希望のユーザーを対象としたサービス拡大について検討していきたいと考えております。

なお、アンケート結果につきましては後日、JAPIC-Q サービスユーザーの方々へお送りする予定です。今後ともよろしくお願い申し上げます。

（医薬文献情報 JAPIC-Qサービス担当　TEL.03-5466-1821）

◆「第 122 回薬事研究会」報告

去る 6 月 13 日(月)東京・千代田区の九段会館ホールで第 122 回薬事研究会を開催いたしました。本年 4 月からスタートした「個人情報保護法」をテーマとした研究会に 200 名を超える参加者があり、活発な質疑応答がされました。最初に **J&T Institute Ltd.の辻 純一郎氏**が**「個人情報保護法と製薬企業の対応を考える」**と題して概要、取り扱い業者の責務、プライバシー保護問題、判例、医療機関の対応など幅広い観点から具体的にお話いただきました。

また、**国立がんセンター中央病院　第一領域外来部長　笹子 充 先生**より**「国立がんセンターにおける個人情報保護法への取り組みについて」**詳細な資料をもとにご報告いただきました。国立がんセンター中央病院が扱うガイドライン、診療情報保護のためのパソコン等利用規定、診療情報提供に関する規定、診療記録等閲覧・貸し出し規則、記録管理規定、一般ユーザ向けガイド、診療情報データファイルの保有の届出書、等具体的な取り組みについてご紹介いただきました。医療機関の現場でこれらに対応するにはかなりの労力が必要で人員対策も含め問題が山積しているとの感想を述べられましたが、今後各機関において取り組む上で非常に参考になる内容でした。なお、当日の資料をご希望の方には差し上げますので事務局までご連絡ください。

（事務局業務担当　TEL.03-5466-1812）

九段会館ホール

◆「平成 16 年度事業報告・決算理事会，評議員会」報告概要

去る 5 月 18 日(水)に第 100 回理事会、20 日(金)に第 17 回評議員会が開催されました。それぞれ議題は以下のとおりであり、すべて原案どおり承認・議決されました。

今回の主な議題でありました、平成 16 年度事業報告・決算報告においては、事業及び決算ともに順調に推移していることをご報告させていただきました。平成 16 年度事業報告・決算報告は、後日、会員の皆様にお送りさせていただきます。

●「第 100 回 理事会」　　5 月 18 日(水) 16:00～17:20，当センター3 階会議室

《議 題》

1. 維持会員・賛助会員の異動承認
2. 平成 16 年度事業報告の承認
3. 平成 16 年度決算報告の承認

●「第 17 回 評議員会」　　5 月 20 日(金) 16:10～17:20，当センター3 階会議室

《議 題》

1. 維持会員・賛助会員の異動承認
2. 平成 16 年度事業報告の承認
3. 平成 16 年度決算報告の承認

（事務局総務担当　TEL. 03-5466-1811）

図書館だより No.181

≺新着資料案内 －平成 17 年 5 月 10 日～平成 17 年 6 月 8 日受け入れ≻

この情報は JAPIC ホームページ ≺http://www.japic.or.jp≻でもご覧頂けます。
お問い合わせは図書館までお願いします。複写をご希望の方は所定の申込用紙でお申し込み下さい。
電話番号 03-5466-1827　Fax No. 03-5466-1818

〈 配列は書名のアルファベット順 〉

書名 著者名	出版社名	出版年月	ﾍﾟｰｼﾞ	定価
Compendium of pharmaceuticals and specialties (CPS)2005－The Canadian Drug Reference for Health Professionals -				
Canadian Pharmacists Association	Canadian Pharmacists Association	2005年	2.715p	¥32,600
カナダの年刊医療用医薬品集（英語）				
現代社会と著作権法 デジタルネットワーク社会の知的財産権				
苗村 憲司、小宮山 宏之 編	慶應義塾大学出版会	2005年 5月	239p	¥2,940
北海道・東北病院情報 2005年版				
医事日報	医事日報	2005年 4月	732p	¥17,850
医学症候群辞典				
Sergio I. Magalini著 武藤徹一郎 監訳	朝倉書店	2005年 4月	1,015p	¥51,450
医薬情報担当者(MR)用語集 改訂第10版				
大阪医薬品協会教育研修会	大阪医薬品協会	2005年 2月	452p	¥2,400
健保請求事務の効能・用法 薬価表 2005年4月版				
石崎 政男 編	中和印刷	2005年 4月	1,044p	¥6,825
KIMS annual 2004				
Mei Chan Wong	MediMedia Korea Ltd	2004年	1,013p	¥4,800
韓国版「MIMS Annual」年版医薬品集（韓国語。医薬品名・会社名に英文付）				
MIMS Annual CHINA 8ed. 2004/2005（中国薬品手冊年刊）				
黄美珍	CMPMedica Asia Pte Ltd	2004年	1,391p	¥4,800
中国の年刊医薬品集（中国語。医薬品名・会社名に英文付）				

書名 著者名	出版社名	出版年月	ﾍﾟｰｼﾞ	定価
MIMS Annual Hong Kong 16th ed. 2004/2005				
Wong Mei Chan	CMPMedica Pacific Limited	2004年	1,696p	¥4,800
香港の年刊医薬品集(英語)				
MIMS Annual Thailand 2004				
Leong Wai Fun et al ed.	MediMedia(Thailand) Ltd	2004年	988p	¥4,800
タイの年刊医薬品集(英語)				
MIMS Vietnam 23rd ed. 2005 1st Issuue				
Wong Mei Chan	CMPMedica Asia Pte Ltd	2005年	456p	¥4,800
年間2回発行のベトナムの医薬品集（ベトナム語。医薬品名・会社名に英文付）				
Pharmindex Brevier 2005				
MediMedia Information, spol. sr.o.	MediMedia Information Spol S.R.O	2005年	1,134p	¥7,400
チェコの年刊医薬品集（チェコ語）				
最近の新薬 2005（薬事日報版 2005年度版）				
薬事日報社	薬事日報社	2005年 5月	295p	¥4,320
過去1年間の新薬・新発売品を取上げた医薬品集				
新世界の医薬品集・薬局方				
佐々木 宏子 著 日本薬学図書館協議会 編	薬事日報社	2002年 11月	380p	¥5,040
53カ国の医薬品集や24カ国の薬局方についての図・写真付き内容解説書				
The Complete German Commission E Monographs. Therapeutic Guide to Herbal Medicines				
Mark Blumenthal et al ed.	American Botanical Council	1999年 5月	707p	¥18,700
ドイツのCommision E モノグラフ。アメリカで使用される生薬・ハーブの基準書（英語）				
ViDAL 2005 Le dictionnaire 81ed.				
Vidal editions	Vidal	2005年	2,791p	¥33,120
フランスの年刊医薬品集（フランス語）				

６月の情報提供一覧

・平成 17 年 6 月 1 日から 6 月 30 日の期間に提供しました情報は次の通りです。
・出版物がお手許に届いていない場合は、
　当センター事務局業務担当（TEL.03-5466-1812）にお問い合せ下さい。

情　報　提　供　一　覧	発行日等
<出 版 物 等>	
１.「医薬関連情報」6 月号	6 月　24 日
２.「Regulations View」No.118	6 月　24 日
３.「JAPIC CONTENTS」No.1660～1663	毎週月曜日
４.「JAPIC NEWS」No.255	6 月　24 日
５.「*JAPIC J*」ｼﾞｬﾋﾟｯｸ･ｼﾞｬｰﾅﾙ No.3　2005.MAY	6 月　13 日
<速報サービス>	
１.「医薬関連情報　速報 FAX サービス」No.488～492	毎　　週
２.「医薬文献・学会情報速報サービス（JAPIC-Q サービス）」	毎　　週
３.「JAPIC-Q Plus サービス」	毎月第一水曜日
４.「外国政府等の医薬品・医療用具の安全性に関する措置情報サービス（JAPIC Daily Mail）」No.990～1011	毎　　日
５.「感染症情報（JAPIC Daily Mail Plus）」No.93～96	毎週月曜日
６.「PubMed 代行検索サービス」	毎月第一水曜日

データベース一覧	更新日
iyakuSearch　<http://database.japic.or.jp/>	
１．医薬文献情報	6月　1日
２．学会演題情報	6月　1日
３．添付文書情報	6月　11日 6月　25日
４．規制措置情報	毎　　日
<JIP　e-InfoStream から提供> ※メンテナンス状況は JIP ホームページ（https://e-infostream.com/）でもご覧いただけます。	
１.「JAPICDOC 速報版（日本医薬文献抄録速報版）」	6月　7日
２.「JAPICDOC（日本医薬文献抄録）」	6月　7日
３.「ADVISE（医薬品副作用文献情報）」	6月　7日
４.「MMPLAN（学会開催予定）」	6月 14日
５.「SOCIE（医薬関連学会演題情報）」	6月　7日
６.「NewPINS（添付文書情報）」（月２回更新）	5月　31日 6月　13日
７.「SHOUNIN（承認品目情報）」	6月　9日
<JST　JOIS から提供>	
「JAPICDOC（日本医薬文献抄録）」	6月中旬

当センターが提供する情報を使用する場合は、著作権の問題がありますので、その都度事前に当センター事務局業務担当（TEL.03-5466-1812）を通じて許諾を得て下さい。

（財）日本医薬情報センター編集・発行

JAPIC「**医療用医薬品集**」2006

CD－ROM 付

定価：14,700 円（税込み）
体裁：B5 判／約 3,000 ページ
発刊：2005 年秋

発売元**丸善**出版事業部

＜30 年の編集実績＞JAPIC の医薬品集

医療薬日本医薬品集（旧書名）は JAPIC が 30 年にわたり編集し、じほう発行でした。
2006 年版から JAPIC「医療用医薬品集」として、JAPIC が編集・発行、丸善（株）
出版事業部が発売します。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝ 財団法人 日本医薬情報センター（JAPIC）
（http://www.japic.or.jp/）

〈禁無断転載〉
JAPIC NEWS　1984.4.27　No.1 発行
2005.6.24 発行

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 2-12-15
長井記念館 3 階
TEL 03(5466)1811　FAX 03(5466)1814